

<ある日・・・>

R君が嬉しそうな表情でお家からヒガンバナを持ってきてくれました。けれど、子どもたちはヒガンバナの名前を知らなかったので、図鑑を持ってきてすぐに名前を調べ始めました。その時、K君が興味を持ったのはヒガンバナの雄しべの先でした。K君は「ここに種入ってるんじゃない？」と雄しべの先に種が入っていると予想し、虫眼鏡でじっと見たり、雄しべの先を開いてみたりする姿が見られました。(ヒガンバナは球根植物なので本当は種はありません。)



これがヒガンバナの雄しべです。K君はここに種があるのではないか、と予想しました。

ヒガンバナについて図鑑でよく調べると、茎の部分に毒があることが判明！子どもたちは「毒あるし絶対食べたらダメやね。」「死んでしまう…」など驚いた表情をしていました。

今度は、K君が持っていた猫じゃらしに注目し、次は「これには毒がないか調べてみよう」と、図鑑を開いてみると…。「先生、名前猫じゃらしじゃないよ！」「エノコログサっていうんだって。」「ポップコーン作れるよ！」「食べれるんだって。」と大興奮の子どもたちでした。

興味津々に虫眼鏡を通して植物を見る子どもたち。顕微鏡を用意すると、早速ねこじゃらしの細かい穂の部分を見てみました。「種みたい。」「小さな粒が見える。」「種に毛が生えてない？」など様々な発見がありました。

そんな中、「園庭にあさがおの種あったよね。」「探ってくださいか！」とあさがおプロジェクトで植えてあったあさがおを思い出し、さっそく園庭へ。種探しが始まりました。

名前が違うんだ。本当に食べれるの！？と私たち保育者も、初めて知ることで驚きました。



<園庭にて・・・>



ひまわり、あさがお、ぶどう、かぼちゃの種を集めて、顕微鏡で見ました。その他にも、木の実や、金木犀の花、葉なども集めてきました。

「先生、あさがおの種探っている？」「ここにも種あるよ。」「見てみよう！」と園庭に顕微鏡を持ってきて、のぞき込む子どもたち。あさがおだけでなく、ひまわりやぶどうなどの種も見つけ、「ひまわりの種って色々な色がついてるね。」「なんかデコボコしてるよ。」と興味津々に順番に見ていました。すると、「木の実落ちてたよ。」「これも見てみようよ。」と種以外の物も見たいという思いから、花や葉、木の実なども拾ってきていました。



あさがおの種を探っています。「いっぱいあるよ。」「種の周りの皮ってパリパリだねー。」などの声が聞こえました。

秋になると、子どもたちは様々な種や木の実とたくさん出会います。私たち保育者が知らないことも図鑑で調べすぐに教えてくれたり、実際に見た発見や驚きを伝えてくれたりする中で、一緒に驚きや発見できた喜びを感じています。

子どもたちは戸外に出かけることで、身近な自然に親しみをもち、遊びに取り入れていく中で自然との関わりを深めていきます。その中で、「これは何の木の実かな？」など疑問を持ち、実際に調べたり見たり聞いたりして自然物の性質についても知っていきます。そのため、秋にしか出会えない自然に出会えるように積極的に戸外に出かけていきたいと思えます。